



BML

株式会社ビー・エム・エル

2022年度決算説明会

2023年5月12日

代表取締役社長

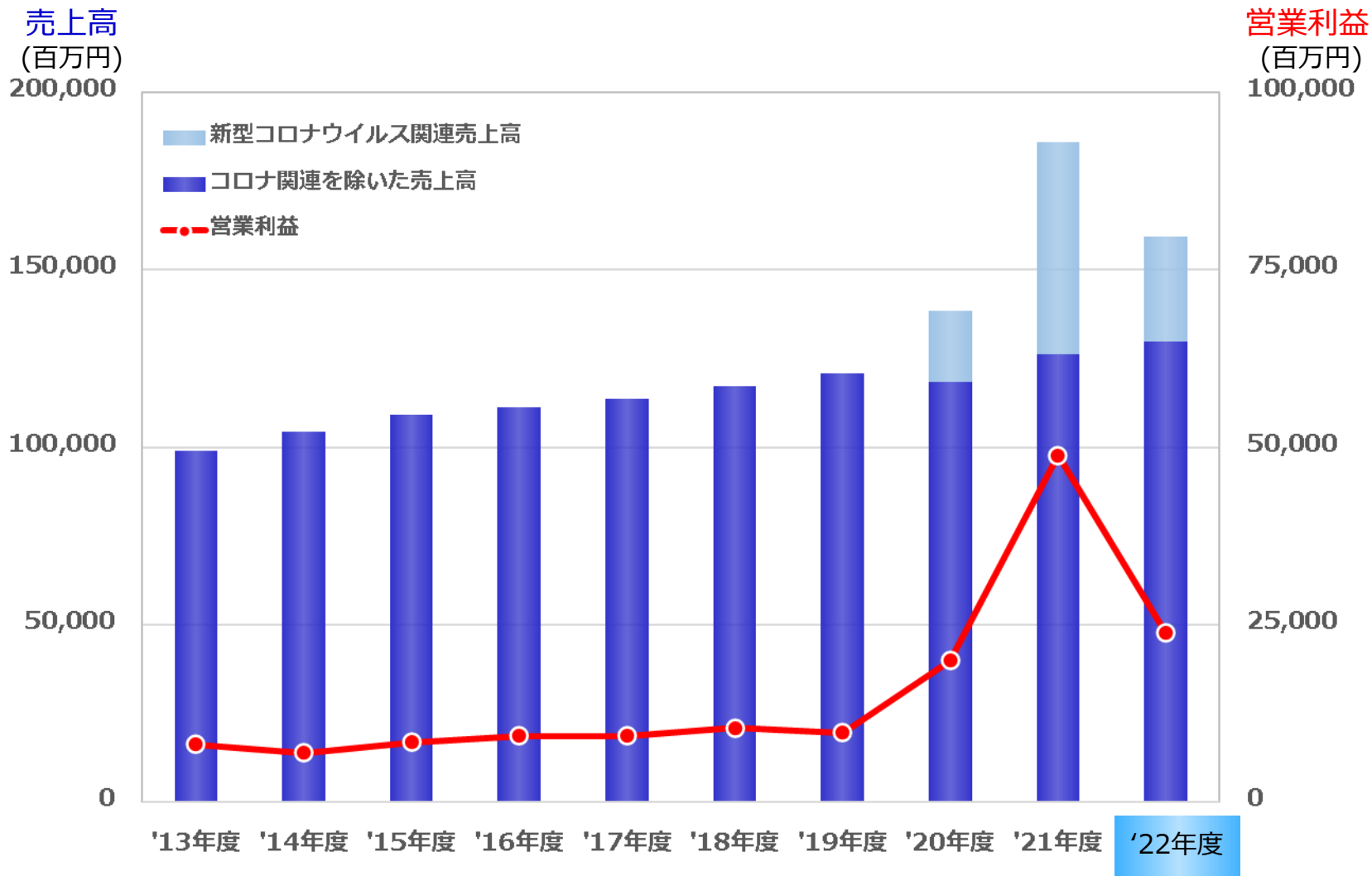
近藤 健介



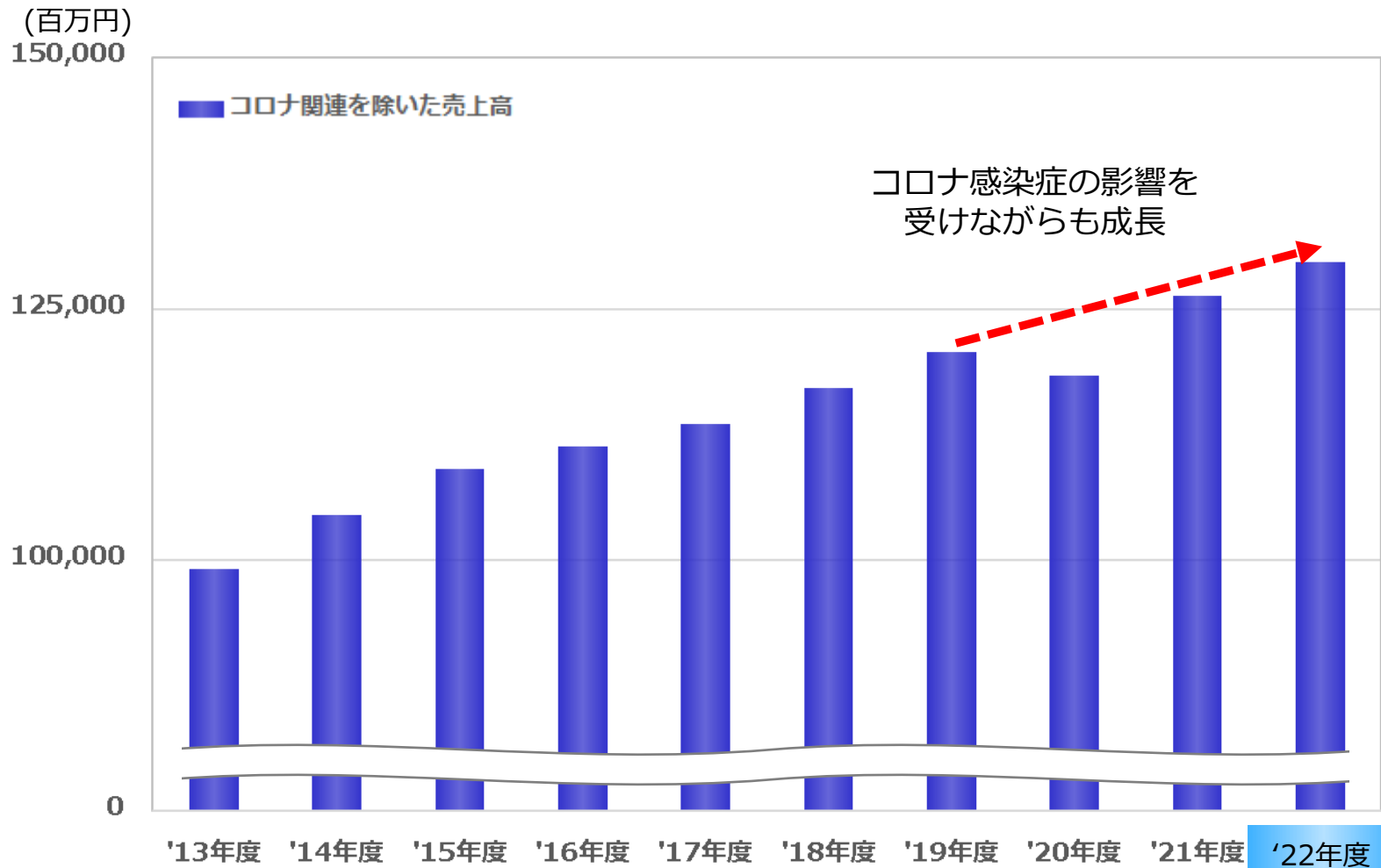
BML

2022年度決算業績概要

【 コロナPCR検査の保険点数引下げの影響で減収・減益 】



【 コロナ関連検査を除いた売上高は成長】

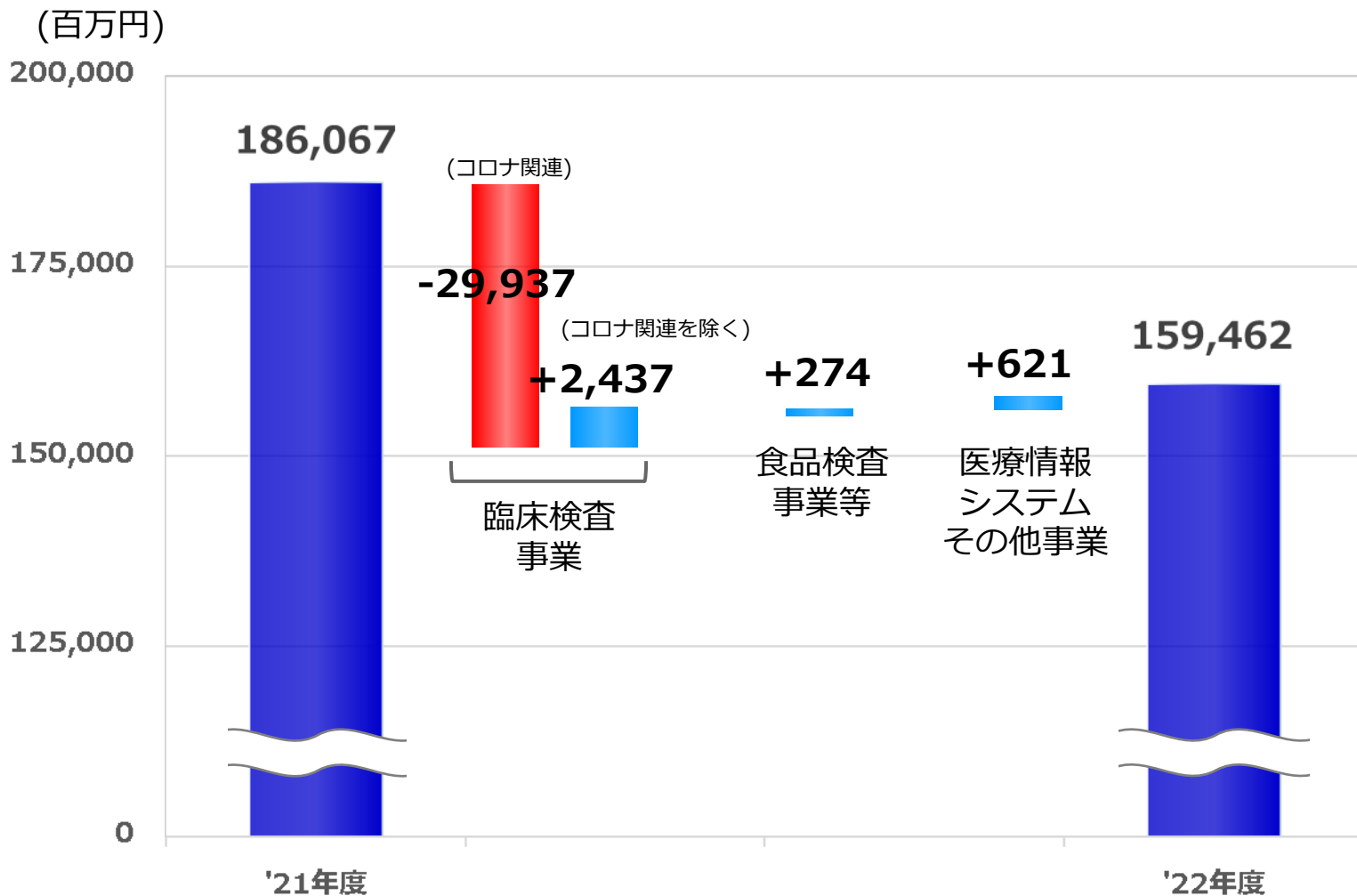


前年度業績比較表

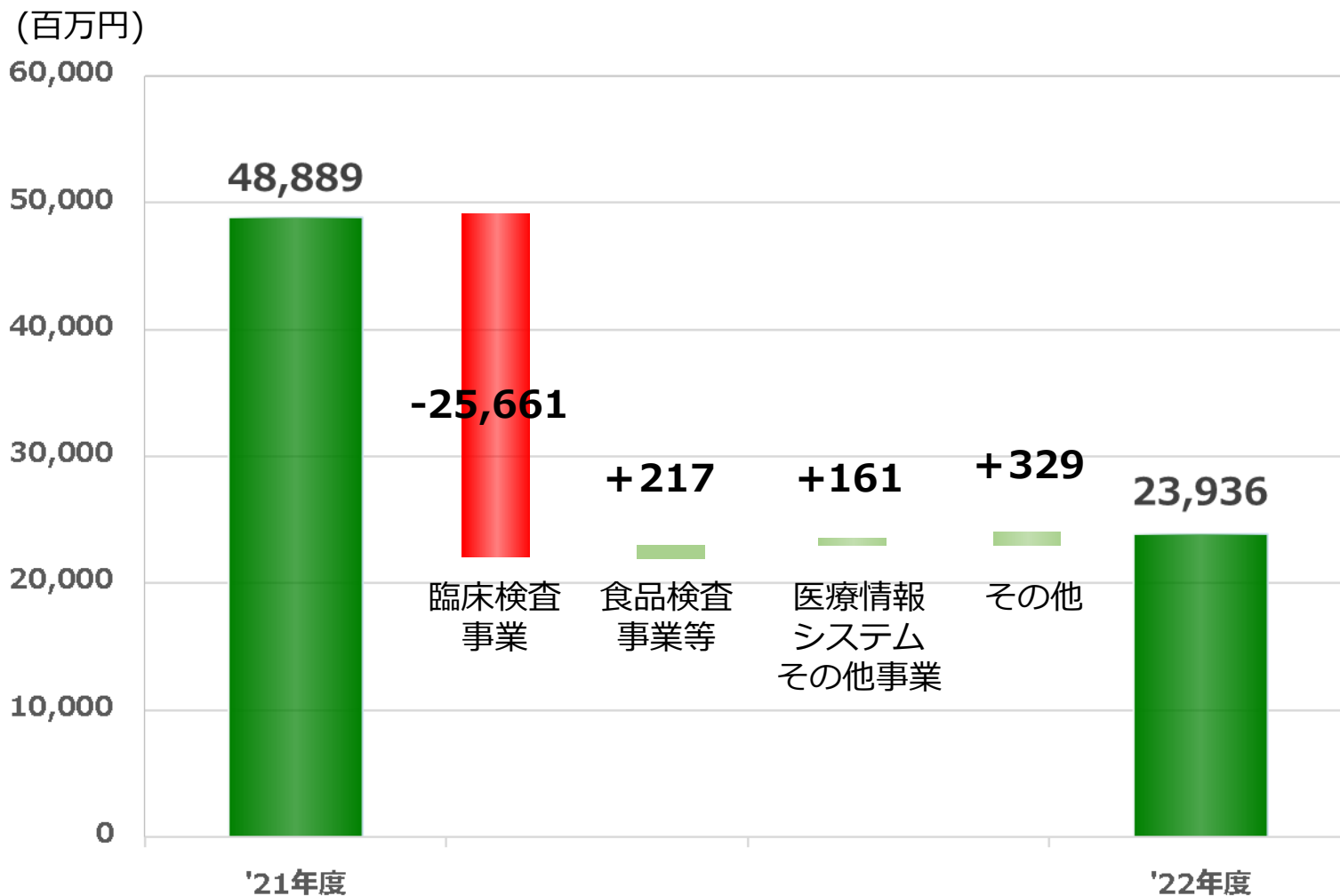
(百万円)

	'21年度	'22年度	増減額	増減率
売上高	186,067	159,462	-26,605	-14.3%
検査事業	179,751	152,525	-27,226	-15.1%
臨床検査	175,232	147,731	-27,500	-15.7%
食品検査	4,519	4,793	274	6.1%
医療情報システム	4,816	5,420	604	12.5%
その他事業	1,498	1,516	17	1.1%
営業利益	48,889	23,936	-24,953	-51.0%
経常利益	51,077	24,182	-26,894	-52.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	33,741	15,578	-18,163	-53.8%

売上高 前期比 266億5百万円 (14.3%) 減収

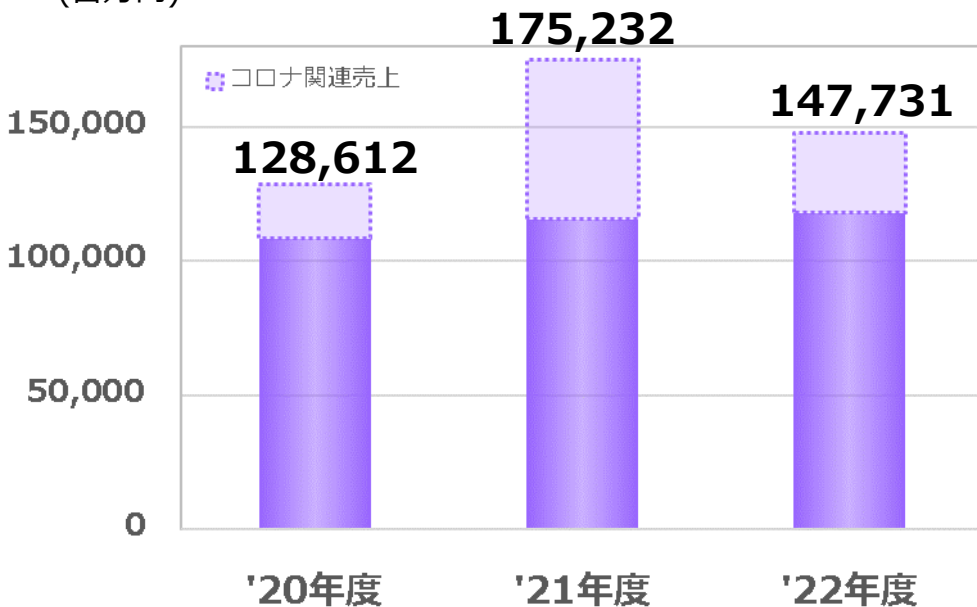


営業利益 前期比 249億53百万円 (51.0%) 減益



売上高 1,477億31百万円
 前期比 275億円 (15.7%) 減収

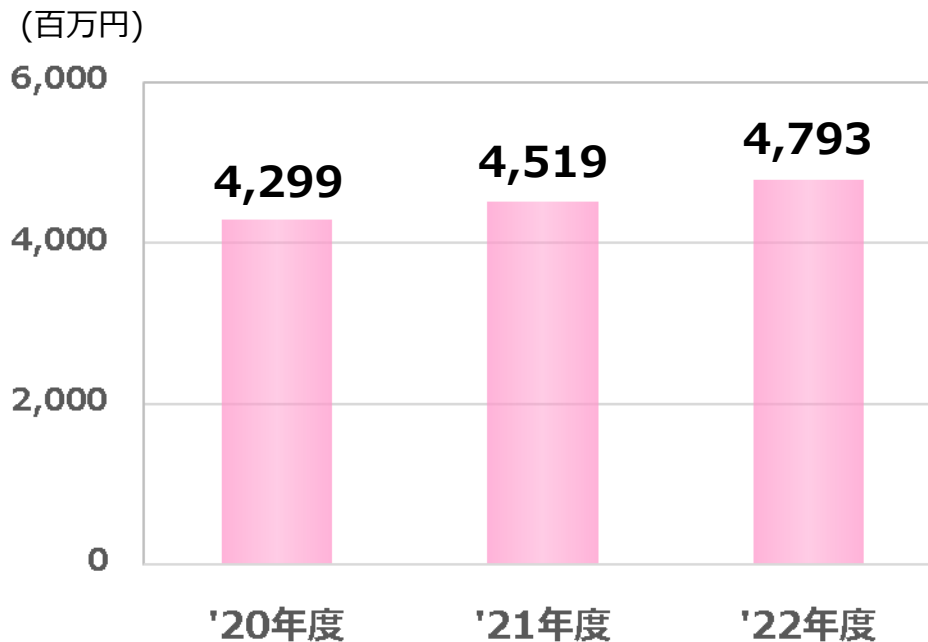
(百万円)



主なトピック

- ✓ コロナ関連検査
 - ・ PCR 検査
 実施件数 -19.3%
 保険点数の引下げ
 ('22年7月~ 700点)
- ✓ 新規獲得・既存検査
 - ・ コロナ拡大(第7波・第8波)の影響で
 厳しい経営環境ながら増加
- ✓ 価格変動
 - ・ -0.9%の下落 (コロナ関連検査除く)

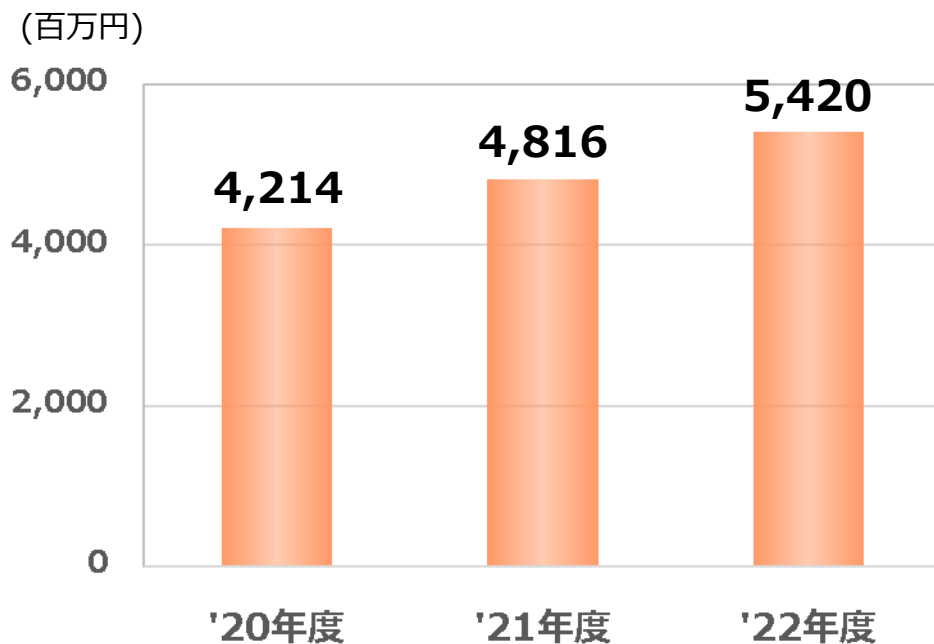
売上高 47億93百万円
前期比 2億74百万円 (6.1%) 増収



主なトピック

- ✓ 食品検査事業
 - ・ コロナ禍前の水準(4,908M)には戻っていないものの回復傾向は継続

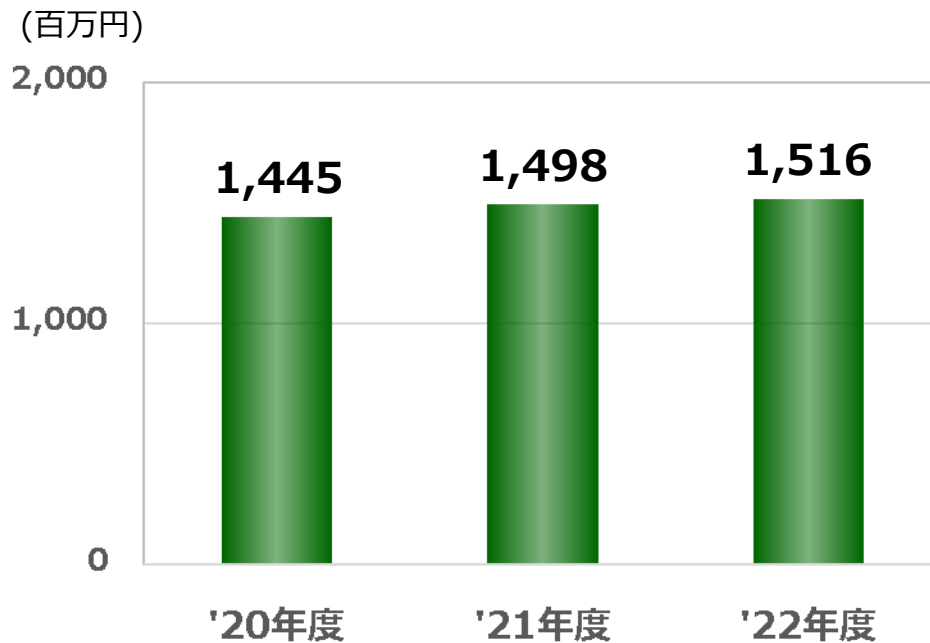
売上高 54億20百万円
前期比 6億4百万円 (12.5%) 増収



主なトピック

- ✓ 新規販売
 - ・ Qualis Cloud販売開始に伴い販売台数は前期比 27%増加
- ✓ リプレイス
 - ・ オンプレミスからの切替需要に対応
- ✓ 増設
 - ・ 前期に引き続きオンライン資格確認の増設が好調に推移
- ✓ 保守
 - ・ 設置施設数の増加に伴い堅調に推移

売上高 15億16百万円
前期比 17百万円 (1.1%) 増収

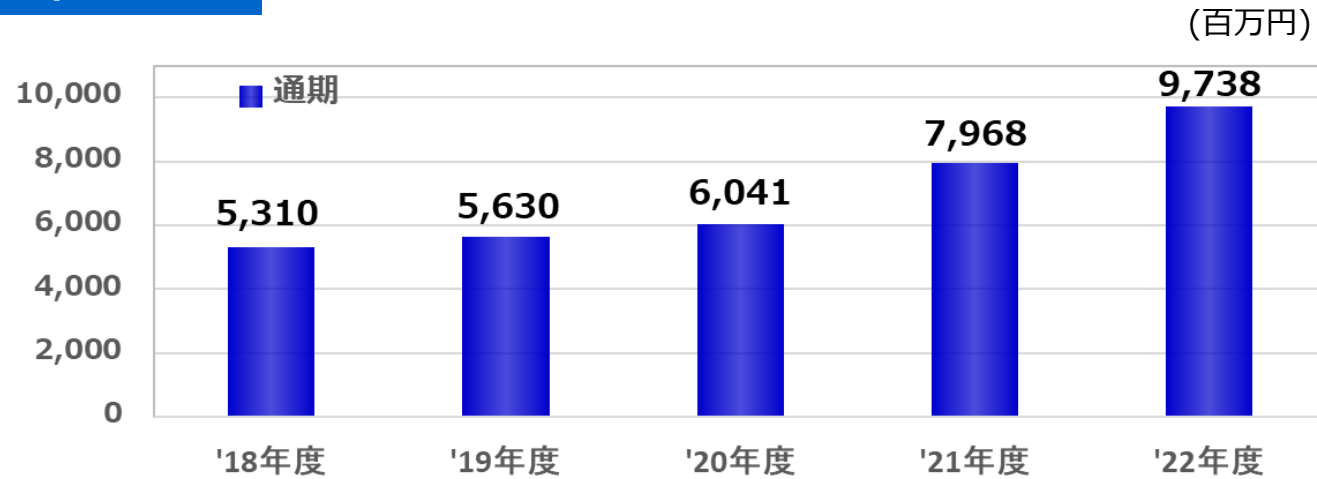


主なトピック

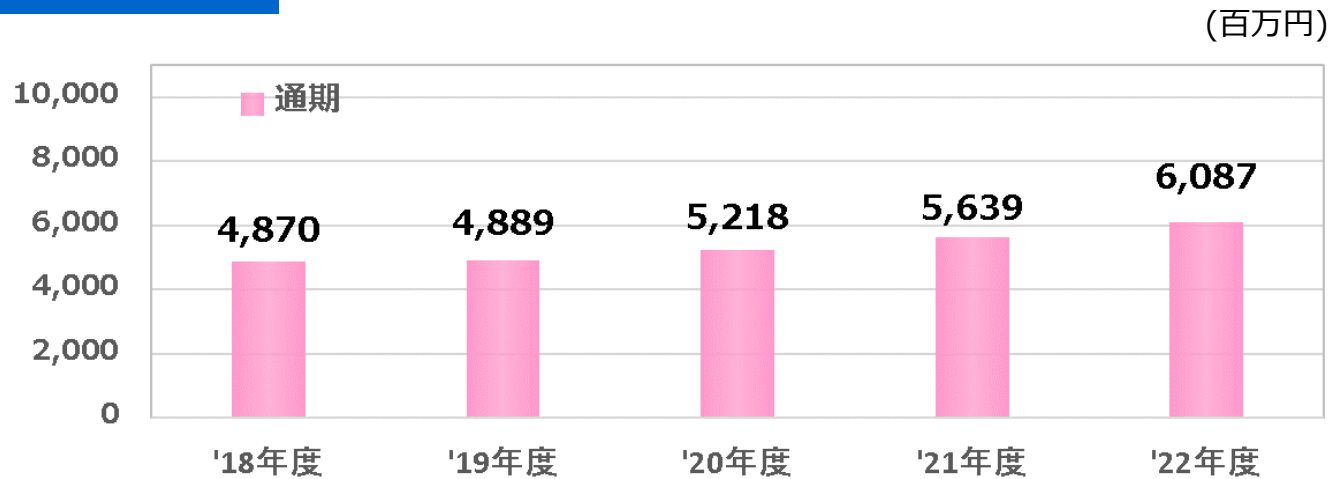
- ✓ 調剤薬局事業
 - ・薬価引下げの影響を受けたものの発熱外来患者数が増加したことで処方箋枚数が増加

設備投資額・減価償却費の概要

設備投資



減価償却費



キャッシュフローの概要

(百万円)

	'21年度	'22年度	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,603	11,742	-33,860
投資活動によるキャッシュ・フロー	-7,297	-7,627	-330
財務活動によるキャッシュ・フロー	-9,828	-9,715	112
現金および現金同等物の期末残高	88,360	82,760	-5,599

主な増減の内容

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益 : -26,144

法人税等の支払額 : -9,573

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出 : +1,132

無形固定資産の取得による支出 : -507

投資有価証券の取得による支出 : -1,427

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額 : -1,509

自己株式の取得による支出等 : +1,717



中期経営計画の進捗

- ① ラボネットワークの充実
- ② 営業力の充実
- ③ 集配プロセスの革新

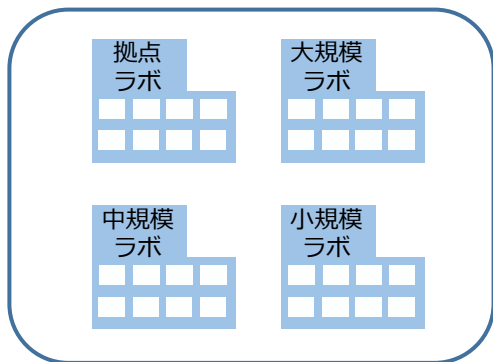
① ラボネットワークの充実

全国ラボ検査工程の標準化

■ 標準化による品質向上

→ 全ラボを以下の基準をもとに4つに分類

①処理能力 ②検査項目 ③要員数



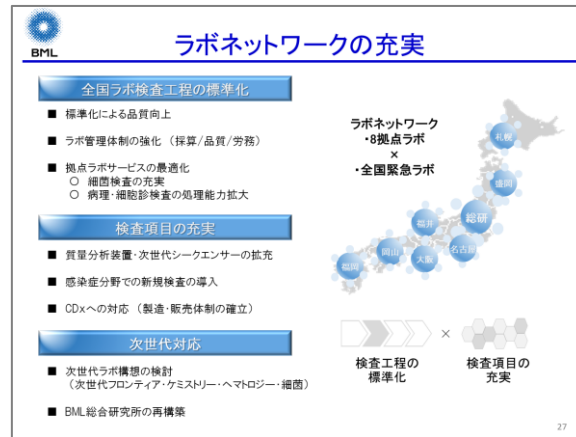
標準機種を選定

→ 検査員であれば全国どこでも
検査が可能

■ ラボ管理体制の強化

→ キャリブレーション・コントロールシステムの構築 ('23年5月システム完成)

<第8次中期経営計画>



ラボネットワークの充実

全国ラボ検査工程の標準化

- 標準化による品質向上
- ラボ管理体制の強化（採算/品質/労務）
- 拠点ラボサービスの最適化
 - 細菌検査の充実
 - 病理・細胞診検査の処理能力拡大

検査項目の充実

- 質量分析装置・次世代シークエンサーの拡充
- 感染症分野での新規検査の導入
- CDxへの対応（製造・販売体制の確立）

次世代対応

- 次世代ラボ構想の検討（次世代フロンティア・ケミストリー・ヘマトロジー・細菌）
- BML総合研究所の再構築

ラボネットワーク
・8拠点ラボ
×
・全国緊急ラボ

検査工程の標準化 × 検査項目の充実

① ラボネットワークの充実

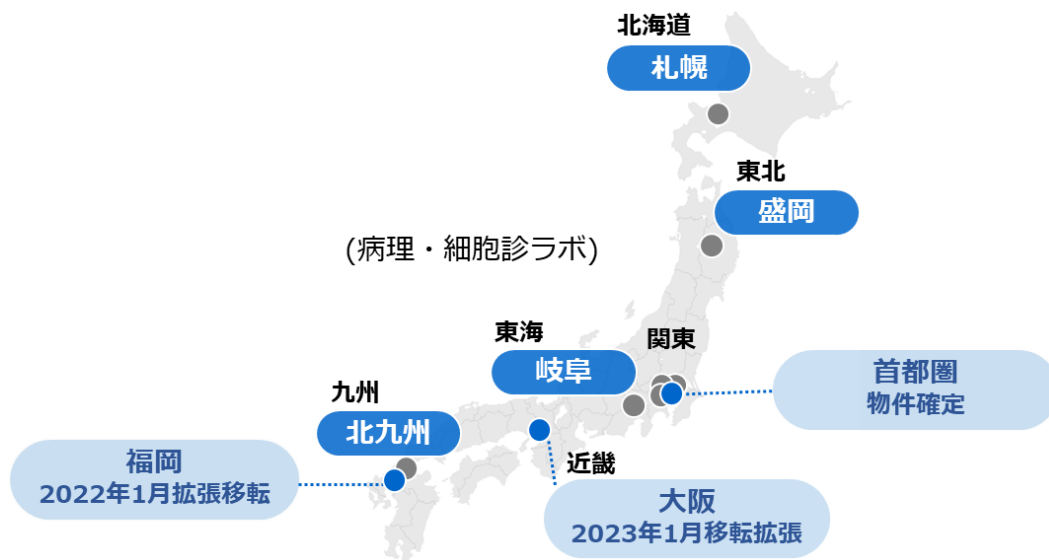
■ 拠点ラボサービスの最適化

→ 病理細胞診検査の処理能力拡大

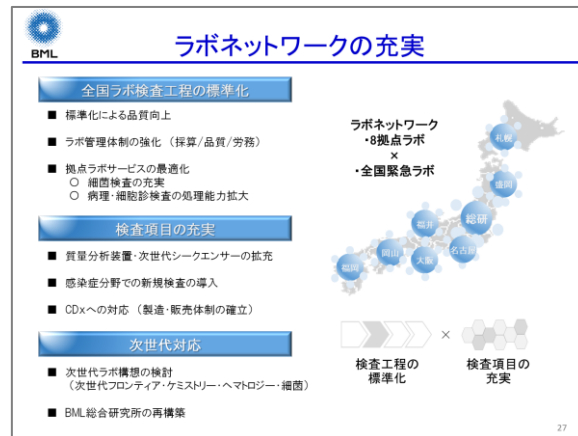
標本作製能力を増強

- PCL福岡ラボ 120%
- PCL大阪ラボ 261%

→ 首都圏のラボ集約と増強 (物件確定)



<第8次中期経営計画>



① ラボネットワークの充実

検査項目の充実

■ 質量分析装置・次世代シーケンサーの拡充

独自検査の開発

先天性難聴の遺伝子変異検査	50遺伝子1,135変異へアップグレード
若年発症型両側性感音難聴の遺伝子変異検査	11遺伝子へアップグレード
シトステロール	脂質異常症の診断マーカー
カンペステロール	
コレスタノール	

主な新規検査

SF3B1遺伝子変異解析	環状鉄芽球を伴うMDS (MDS-RS)
--------------	----------------------

<第8次中期経営計画>

ラボネットワークの充実

全国ラボ検査工程の標準化


- 標準化による品質向上
- ラボ管理体制の強化（採算/品質/労務）
- 拠点ラボサービスの最適化
 - 細菌検査の充実
 - 病理・細胞診検査の処理能力拡大

検査項目の充実

- 質量分析装置・次世代シーケンサーの拡充
- 感染症分野での新規検査の導入
- CDxへの対応（製造・販売体制の確立）

次世代対応

- 次世代ラボ構想の検討（次世代フロンティア・ケミストリー・ヘマトロジー・細菌）
- BML総合研究所の再構築



ラボネットワーク
・8拠点ラボ
×
・全国緊急ラボ

検査工程の標準化 × 検査項目の充実

① ラボネットワークの充実

次世代対応

■ 次世代ラボ構想

→ 新棟建設の着工


→ 新棟建設第2フェーズ (別途説明)

- 新自動分注システム
- 新生化学・免疫学検査システム
- 新血液学検査システム
- 新微生物学検査システム

(2024年8月竣工予定)



<第8次中期経営計画>



ラボネットワークの充実

全国ラボ検査工程の標準化

- 標準化による品質向上
- ラボ管理体制の強化 (採算/品質/労務)

拠点ラボサービスの最適化

- 細菌検査の充実
- 病理・細胞診検査の処理能力拡大


検査項目の充実

- 質量分析装置・次世代シークエンサーの拡充
- 感染症分野での新規検査の導入
- CDxへの対応 (製造・販売体制の確立)

次世代対応

- 次世代ラボ構想の検討 (次世代フロンティア・ケミストリー・ヘマトロジー・細菌)
- BML総合研究所の再構築

ラボネットワーク
・8拠点ラボ
×
・全国緊急ラボ



検査工程の標準化 × 検査項目の充実

②営業力の充実

非保険分野の強化

【健診ビジネス】

■ ソリューション力の強化

→ 売上増強策

- オプション項目の充実・拡販 (がん関連を含む)

→ 健診施設の業務効率化

- B-Label*の展開

* 検体・患者情報ならびにバーコード付検体ラベル

<第8次中期経営計画>



営業力の充実

顧客基盤の拡大と深耕

- BMLグループ全社で連携したマーケティングの実施
- 本部と支社・営業所の連携による営業展開

非保険分野の強化

【医療情報】

- クラウド版 電子カルテの上市
- 臨床検査システム (B-Liner)の機能拡充

【予防医学】

- 検診事業の強化 (営業戦略/集荷体制の確立)

【食品衛生】

- 食品品質管理の総合コンサルティング
- 資格認証事業の拡大 (JFS-B/JFS-C)

<充実したオプション項目のご案内>



動物検化を促しやすい!

真の悪役 超悪玉 コレステロール (small dense LDL コレステロール)

血液検査でわかる

悪玉 (LDL)

超悪玉 (small dense LDL)

超悪玉子エック

一般的に超悪玉コレステロールが多いのは次のような人です。

株式会社ピーエムエル

②営業力の充実

【食品衛生】

<BMLグループと競合他社とのサービス領域の比較>

コンサルティング事業			検査事業	
店舗点検	工場監査・認証	食品表示	食品検査	腸内細菌検査
BMLグループ				
A社			A社	
C社				
D社				

■ 総合コンサルティングの概念を明確化

→ 店舗点検から腸内細菌検査までのフルラインを整備

■ 注力するポイント

→ 資格認証事業の拡大 (JFS-B/JFS-C)

→ 腸内細菌検査の能力増強とコストダウン (新棟)

<第8次中期経営計画>

営業力の充実

顧客基盤の拡大と深耕

- BMLグループ全社で連携したマーケティングの実施
- 本部と支社・営業所の連携による営業展開

非保険分野の強化

【医療情報】

- クラウド版 電子カルテの上市
- 臨床検査システム (B-Liner)の機能拡充

【予防医学】

- 検診事業の強化 (営業戦略/集荷体制の確立)

【食品衛生】

- 食品品質管理の総合コンサルティング
- 資格認証事業の拡大 (JFS-B/JFS-C)

③集配プロセスの革新

利便性の向上/業務負荷の低減

■ デジタルレポーティングシステム(DRS) を推進

→ 効率化効果

	'21年度	'22年度
B-Label検体数	180万本	545万本
削減効果額	12.5百万円	42百万円
削減効果時間	11,500時間	35,000時間

→ 導入施設数推移

	'21年度	'22年度
B-Connect ^{*1}	19,438施設	20,458施設
B-Report ^{*2}	6,860施設	7,403施設

*1インターネットを介した検査依頼、検査結果報告

*2インターネットを介した検査結果照会

<第8次中期経営計画>



利便性の向上 / 業務負荷の低減

- デジタルレポーティングシステム(DRS)を推進
 - (依頼書/検体受付時)
 - ペーパーレス化
 - 検体ラベルによる採取間違いの防止
 - 受付業務の簡素化
 - (検査報告時)
 - インターネットによる検査結果の照会
 - 報告書仕分けの効率化

⇒ 「パイロット地区」から「全国」への展開

データ品質の追求

- 温度管理の定着

集配プロセス

集配拠点 (全国100以上)



次世代への投資

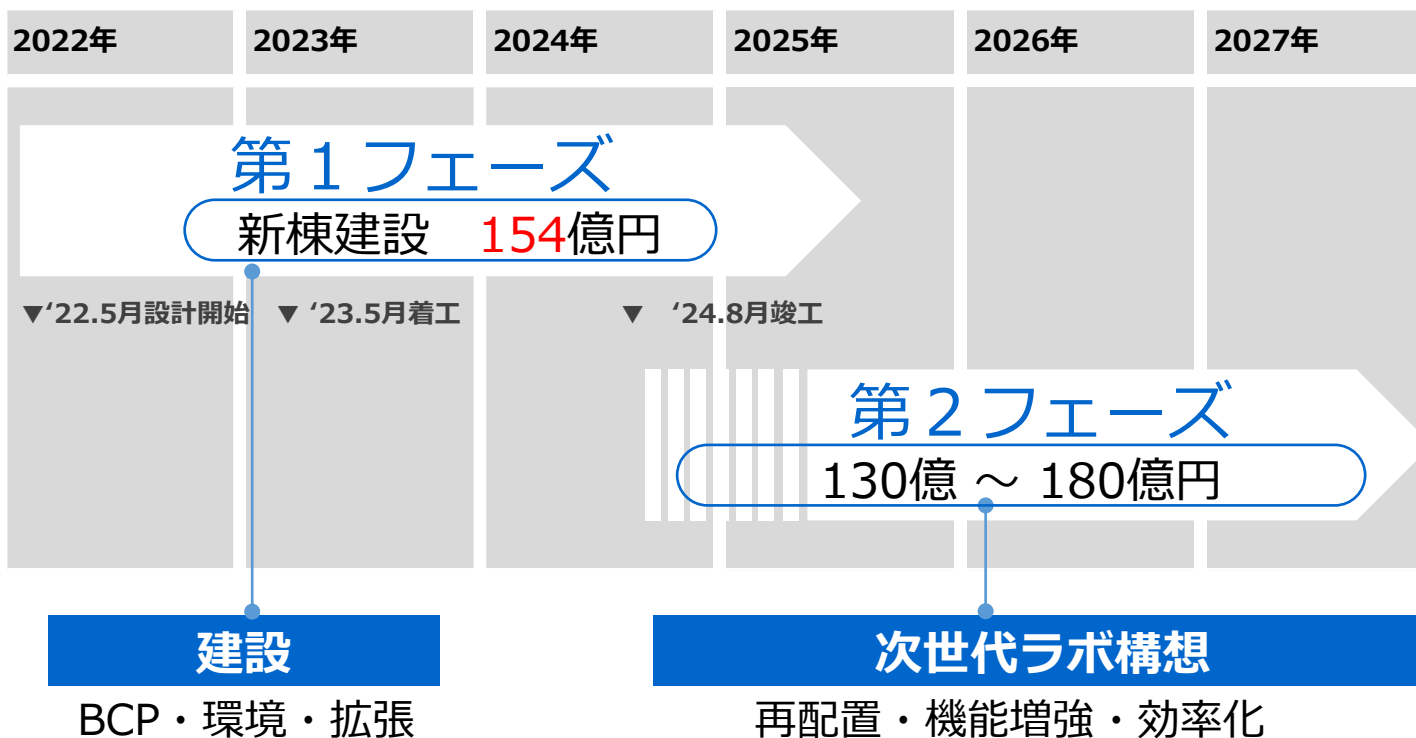
- ① BML総合研究所 (第6期棟・Lab Corp棟)
- ② 病理学的検査
- ③ 食品検査
- ④ ソフトウェア

① BML総合研究所

■ 新棟稼働までのロードマップ

【第1フェーズ】

着工・竣工時期 : 変更なし
 建設費 : 134億円から**154億円**へ増加
 (設備機能追加、物価・労務費の上昇に伴う)



① BML総合研究所

- 第2フェーズの次世代ラボ構想で予定している主な設備投資項目

BML総合研究所		
6期棟(新棟)	既存棟	Lab Corp棟
<p>新自動分注システム</p> <p>新生化学・免疫学検査システム</p> <p>新血液学検査システム</p> <p>AGV搬送*</p>		グローバル治験
<p>新微生物学検査システム</p>	<p>ゲノム</p>	
<p>分離分析</p>	<p>一般</p>	
<p>細胞生物</p>	<p>検体管理棟</p>	
<p>研修ラボ</p>		

*Automatic Guided Vehicle (無人搬送)

■ 設備投資のコンセプト

分野	コンセプト
新自動分注システム 新生化学・免疫学検査システム 新血液学検査システム AGV搬送	検査能力の拡大 検査効率の向上
新微生物学検査システム	品質の向上 新技術の導入
ゲノム	検査能力の拡大 検査項目の拡充 独自検査項目の開発

① BML総合研究所

■ 減価償却費の発生について

<第1フェーズ>

建物・建物付属	投資額	154億円
	減価償却費	4億円程度/年間

→ 業績へ与える影響は軽微

<第2フェーズ>

次世代検査機器	投資額	130億円～180億円 (見込)
	減価償却費	第9次中期経営計画で発表予定

② 病理学的検査

■ 病理学的検査への投資

→ 今後も安定した成長が見込まれることから検査能力を拡大

< 投資概要 >

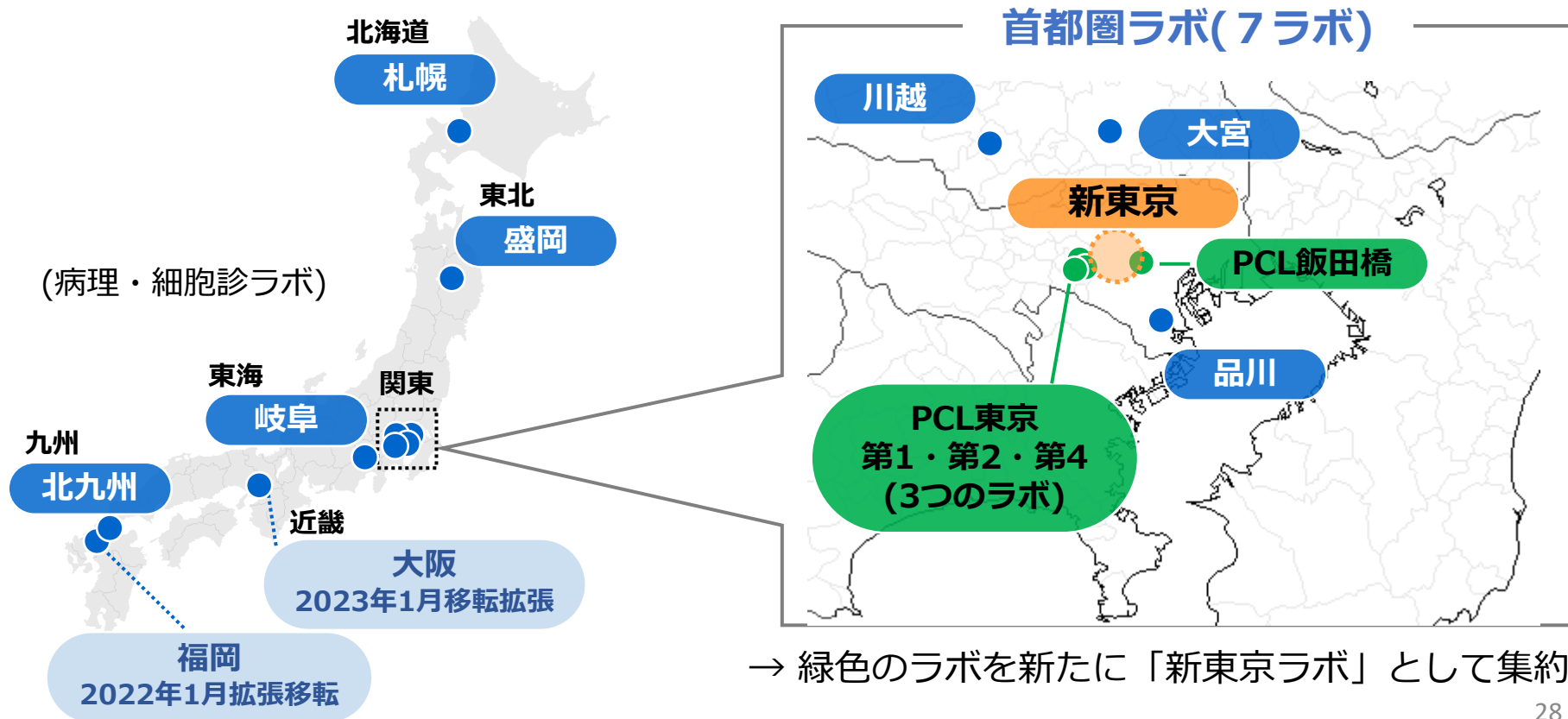
	概要
所在地	東京都新宿区市谷
敷地面積	693.39m ²
延床面積	2,143.4m ²
購入費用	49億円
竣工	2024年11月

② 病理学的検査

■ 検体数の増加に向けた検体処理能力拡大

- ・ 新東京ラボ (仮称)への集約・拡張移転 ('25年1月予定)
標本作成能力を130%へ増強

→ 今後10年間の検体増加に対応



③ 食品検査

■ 拡大余地の大きい食品検査への投資

< 投資概要 >

	概 要
所在地	埼玉県川越市の場
敷地面積	2,766.42m ²
延床面積	3,994.5m ²
建設費用	18 億円
竣工	2024年2 月

③ 食品検査

- 既存の食品検査センター隣地に新検査センターを建設
 - ・ BCP対策 (浸水により検査継続に影響を及ぼす設備*を上層階へ移設)
 - ・ 検査処理能力を現状の 約2倍に増強
 - ・ コスト低減による価格競争力を確保

*腸内細菌ラボ、高圧受変電設備および受水槽



④ ソフトウェア

■ ソフトウェアへの投資

今後10年間で通常のソフトウェア投資とは別に 50億円程度の投資を予定
→ 基幹システムへの投資を初めDX推進基盤への投資を継続

- ◇ ブラウザ版電子カルテ
- ◇ キャリブレーション・コントロールシステム
- ◇ 基幹システムのマイグレーション
- ◇ ERPシステムの更新
- ◇ 地方検査システムのBCP対策 など





ファルコホールディングスとの 資本・業務提携について

- ① 合意書の締結について
- ② 特殊検査の受託
- ③ 地方での検査委受託
- ④ ICT機能

① 合意書の締結について

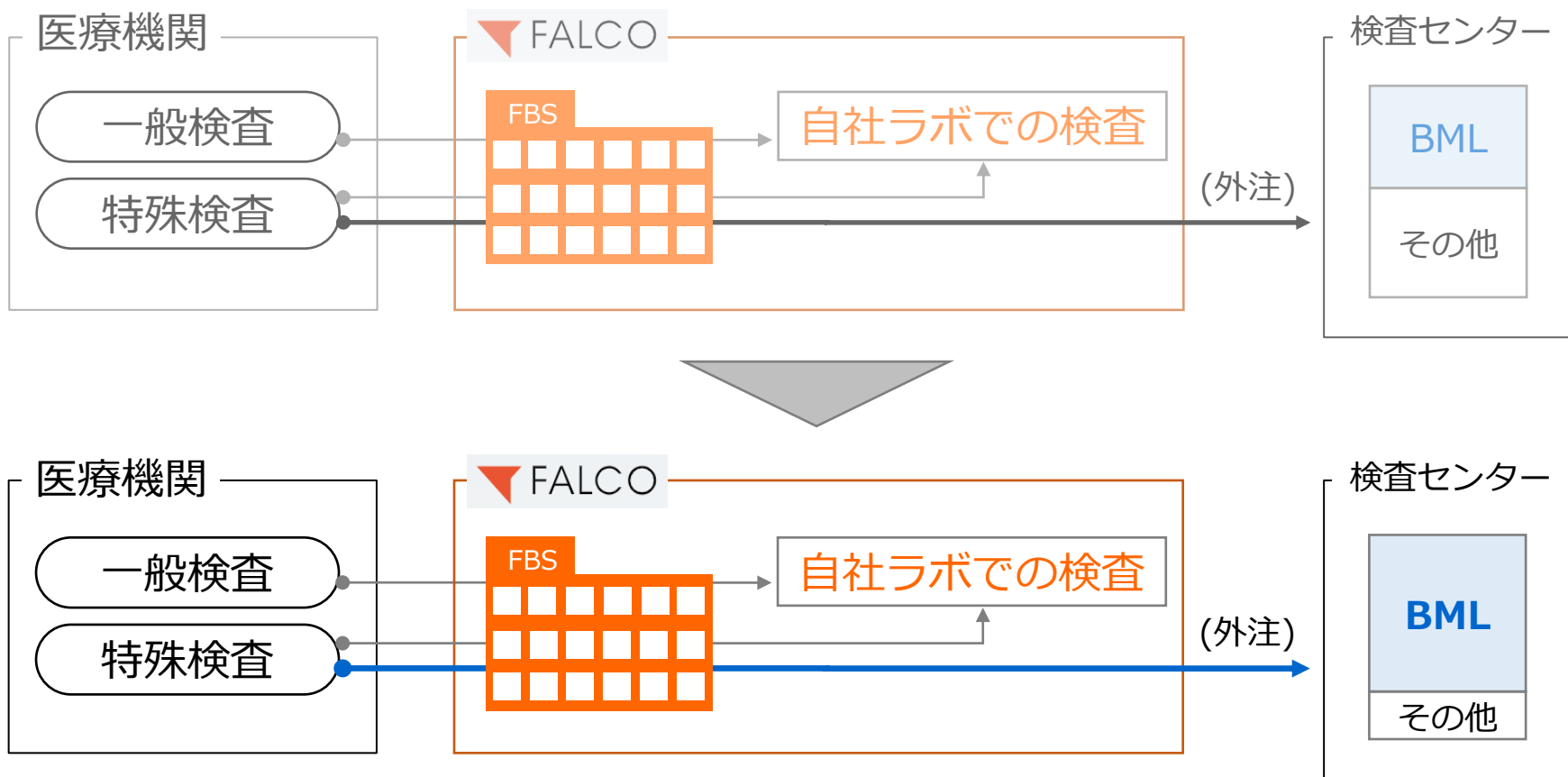
- 本日(5月12日)「BML株式に関する合意書」を締結
→ ファルコホールディングスによるBML株式取得

< 取得の内容 >

取得期間	2023年5月16日～2023年9月29日
取得価額の総額	1,427,300,000円を上限

② 特殊検査の受託

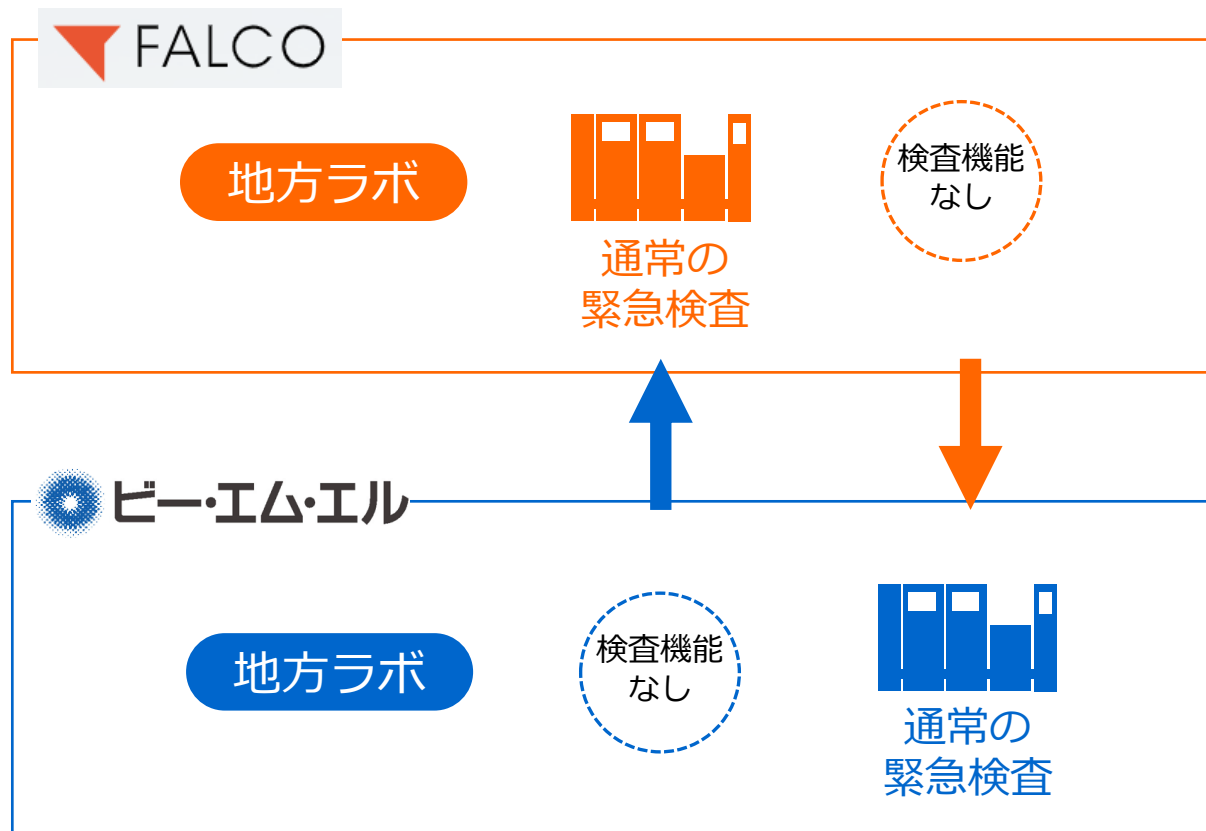
- ファルコバイオシステムズ（FBS）による特殊検査の外注分をBMLへシフト



③ 地方での検査委受託

■ ラボ空白地域での相互活用

→ ラボの検査機能ごとに補完体制を検討



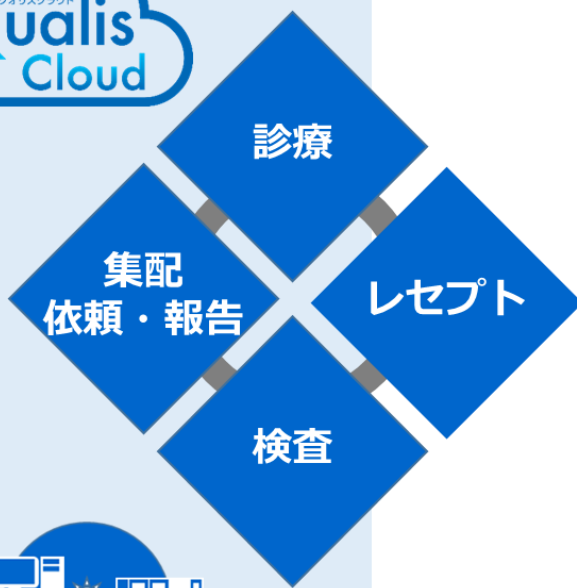
④ ICT機能

■ ICT商品の販売

→ 相互にシステムを補完していくことで医療現場のDXを推進

ビー・エム・エル

【現在のサービス】



～ DX推進の新たなサービス～



ファルコ社が展開する
レセプト業務支援サービス



2023年度通期の見通し 株主還元

2023年度通期の見通し

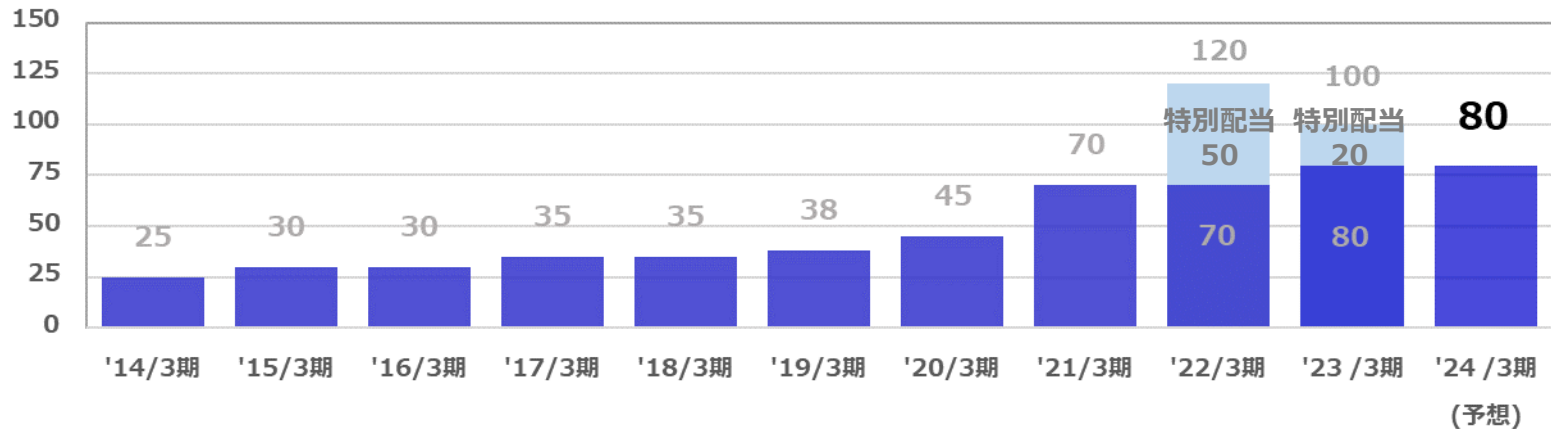
	'22年度	'23年度	増減額	増減率
売上高	159,462	135,000	-24,462	-15.3%
検査事業	152,525	128,700	-23,825	-15.6%
臨床検査	147,731	123,800	-23,931	-16.2%
食品検査	4,793	4,900	107	2.2%
医療情報システム	5,420	4,800	-620	-11.4%
その他事業	1,516	1,500	-16	-1.1%
営業利益	23,936	11,500	-12,436	-52.0%
経常利益	24,182	11,800	-12,382	-51.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	15,578	7,600	-7,978	-51.2%

(百万円)

配当金

◇ 配当金の推移

(円)



(注) '16年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割をしています。

(注) '16年以前は分割後の金額で表示をしています。

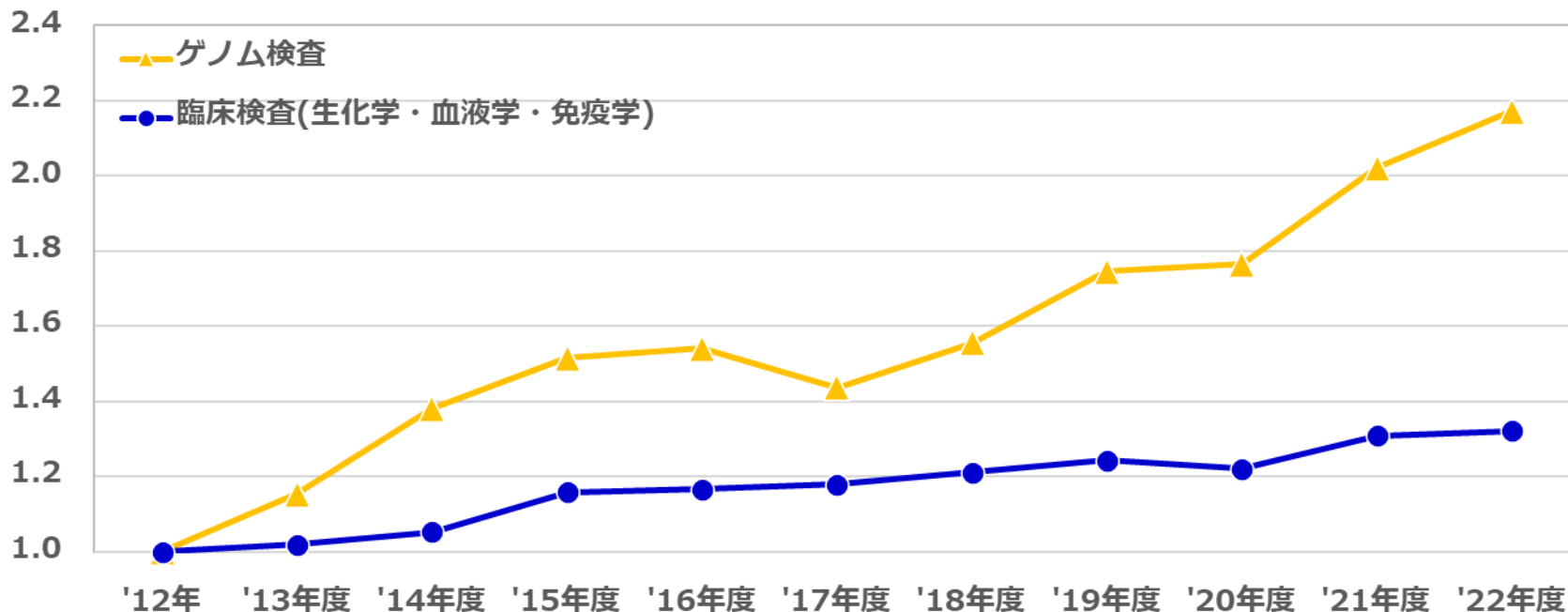
(注) '24年3月期は年間80円を予定しています。

Appendix

■ ゲノム検査(コロナ関連を除く)の売上高推移は臨床検査*よりも高い

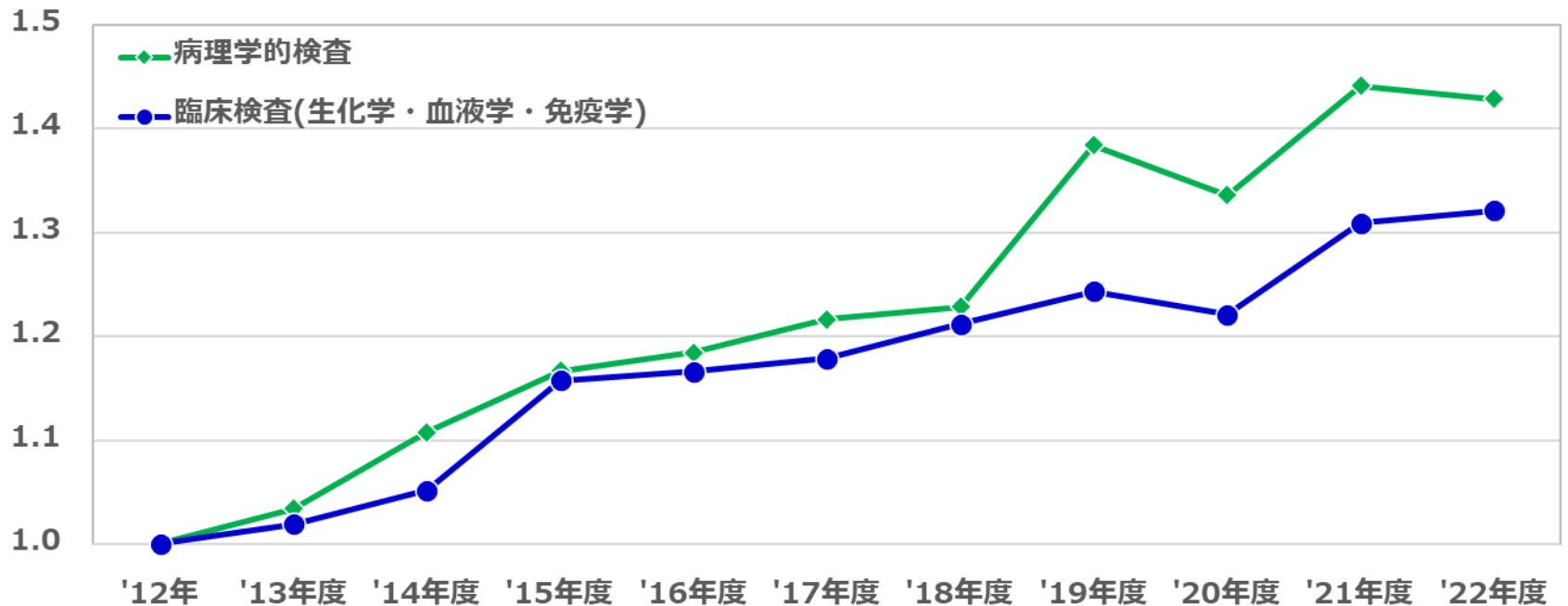
*生化学的検査・血液学的検査・免疫学的検査

※ 2012年度の売上高を1とした場合の増加率



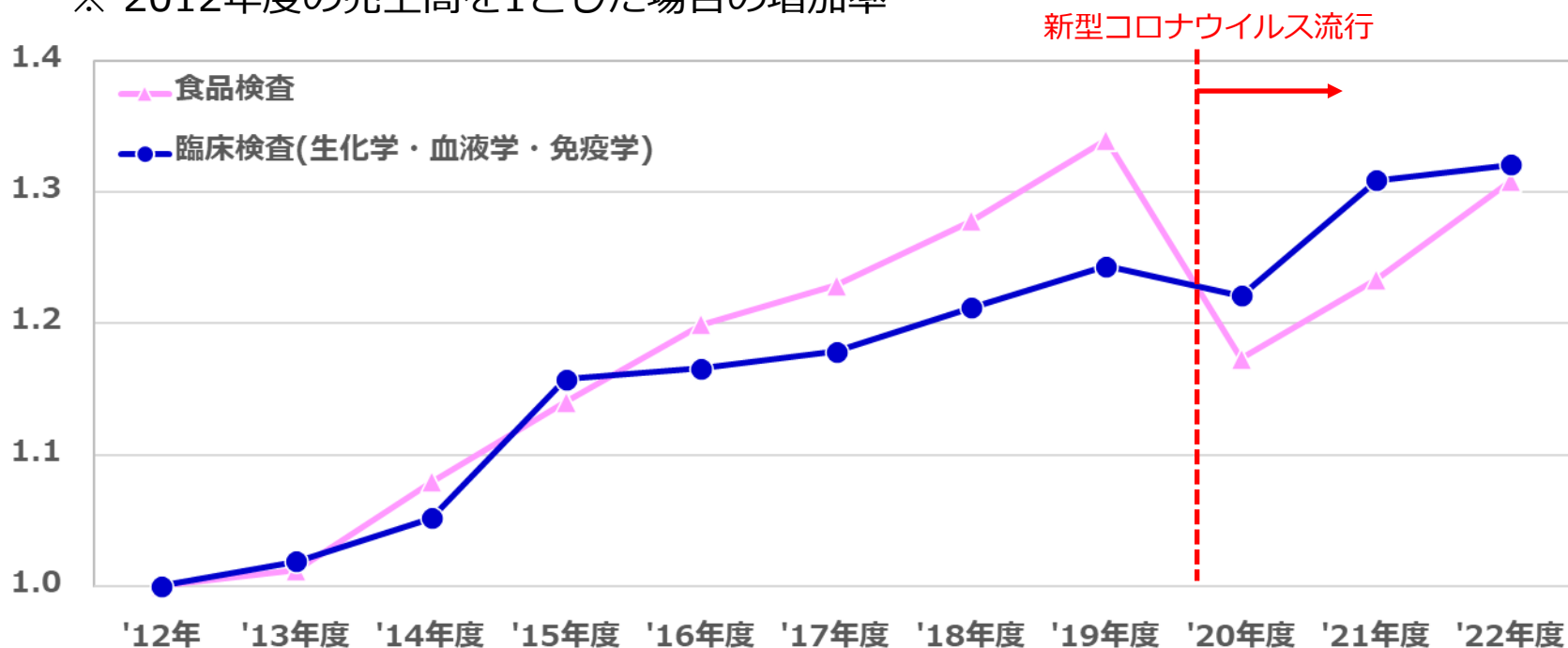
■ 病理学的検査の売上高推移は臨床検査よりも高い

※ 2012年度の売上高を1とした場合の増加率



- 食品検査の売上高はコロナの影響を受け減少したものの、平時に戻り軌道に乗れば臨床検査よりも高い増加率で成長

※ 2012年度の売上高を1とした場合の増加率



	'18年度	'19年度	'20年度	'21年度	'22年度
営業利益率	8.9%	8.1%	14.4%	26.3%	15.0%
ROIC	9.0%	8.5%	15.1%	28.5%	13.1%
DOE	2.1%	2.5%	3.3%	4.2%	3.2%
総還元性向	24.3%	116.8%	20.7%	28.5%	31.5%

(百万円)

EBITDA	15,753	15,102	26,258	56,005	30,312
営業CF	12,507	12,771	19,574	45,603	11,742
FCF	8,567	7,558	14,990	38,306	4,115

健康経営

- 健康経営優良法人 2023 「ホワイト500認定」



- ・ 健康経営の推進体制を構築
 - 当社は引き続き、ワーク・ライフ・バランスを推進し、多様な社員が活躍できる職場づくり、こころと身体健康維持・増進、自主的に健康を維持増進するための取り組み支援を継続していきます



医療界に信頼され
選ばれる企業をめざす

Customer Satisfaction

(顧客満足)

Synergy

(相乗効果)

Social Responsibility

(社会的責任)



< 将来に関する記述等についてのご注意 >

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。